

E 9

家政学雑誌における研究課題の解析 -表題と要旨との関連において-  
 大妻女大家政 岡田守代、大森正司、岡本順子 図書館情報大 佐々木敏雄  
 東京農大農 加藤みゆき 大妻高校 徳増しげ子 岐阜大教育 長野宏子

目的 家政学の構成と構造を理解する目的で、今迄に、家政学雑誌研究課題の時代的変遷、要素技術連関分析、国際比較などを行って来た。この間、家政科学技術分類表(CHE)の若干の修正を行い、これはWallの式からも計算出来るように、ほぼ実用に耐えるものとする事ができた。今回は、このCHEを用いて研究課題と要旨の分析を行い、家政学研究の特徴を明らかにすることを試みた。

方法 1985年、日本家政学会大会講演要旨に掲載されている、全論文の研究課題399題、および要旨399編を対象として分析した。これらを従来と同様にCHEを用いてインデクシング、マーク、機械処理をした。

結果 全論文中、食物関係181(45.4%)、被服関係142(35.6%)、児童関係8(2.0%)、住居関係27(6.8%)、原論関係28(7.0%)、教育関係13(3.3%)であつたため、付与された標数もほぼこれと対応していることが示された。要旨を読んでインデクシングを行った場合、課題だけの場合よりも2倍以上の値として示され、また、その内容も、年代の場所、条件、分析法、材料などの標数が99%用いられていることが理解された。

1) 吉村典夫、大森正司、他

ドクメン・ケンキョウ 35 495 (1985)